



真心の行動 慈愛の奉仕 平和に挺身

1995—96年度国際ロータリーのテーマ

ハーバート G ブラウン
国際ロータリー会長

第2560地区
 ガバナー——重 田 政 信
 会 長——石 橋 育 於
 会長エレクト——捧 賢 一
 副 会 長——五十嵐 総 一
 幹 事——松 谷 昊 吉 一
 副 幹 事——五十嵐 昭 一
 S A A——清 水 良 一
 副 S A A——菊 池 涉

例 会 日——毎週水曜日 12:30 ~
 例会場及び——三条市旭町2-5-10
 事 務 局——三条信用金庫本店内
 例 会 場——TEL 35-3311
 事 務 局——TEL 35-3477
 FAX 32-7095

本日出席会員数	80名中 57名
先々週出席率	94.67 %
前年同期出席率	

渡辺勝利さん
 長谷川有美さん
 加藤紋次郎さん
 斎藤弘文さん

ヴィジター

三条南より 大竹和男さん
 三条北より 中條耕二さん
 高橋彰雄さん

2 / 6 三条北へ

野村竹三郎さん

先週のメイクアップ

2 / 5 三条南へ

古沢富雄さん
 松谷昊吉さん
 樺山 仁さん

会長挨拶

石橋会長

本日は三条南クラブより大竹和男さん、三条北クラブより中條耕二さん、高橋彰雄さん、ようこそおいで下さいました。

昨日は大荒れの天候でしたが、本日は青空も見える穏やかな一日となりました。三寒四温というにはまだ早いようですが、一日一日と春が近づいておるようです。

今日は三条市内養護学校の特殊学級児童生徒の卒業、進級を祝い会に、三条南クラブさん、三条北クラブさん、又ライオンズさん等の会長と来賓として出席してまいりました。本年は小・中学生16名の卒業生でした。開会式で始まり、リボン記念品の贈呈やら生徒会員参加のレクリエーション、又アトラクションには県警音楽隊によります演奏など盛り沢山の祝い会でした。生徒達は明るく、伸び伸びとした表情で楽しんでおりました。これから1年1年成長する訳ですが、いろいろの障害もあるかも知れません。父兄、先生始め地域社会が温かく手を差し延べて見守ってやり、明るく、希望に満ち、成長されて行く事を念じます。

幹事報告

松谷幹事

◎ロータリーの友事務所1996～97年度ロータリー全国会員名簿手帳お買い上げのお願いがとどいております。

ニコニコBOX



鈴木さん

本日の昼食の弁当のふたを開けたら好物のハツ目が入っていました。今年の初物です。

川又さん

荻根沢さんの卓話楽しみに聞かせていただきます。家族一同5名、メルボルンへ行ってきました。

斎藤(弘)さん

2月3日の節分の日、本成寺に於いて産業振興を祈念して豆まきに参加致しました。

榎本さん

荻根沢さん、本日卓話御苦勞様です。御期待しております。

山田さん

荻根沢さんの卓話期待して！

佐野さん

荻根沢会員の卓話を楽しみにしています。

渋谷(正)さん

荻根沢さんの卓話楽しみに聞かせてもらいます。

渡辺(勝)さん

荻根沢会員の卓話楽しみにしています。

荻根沢さん

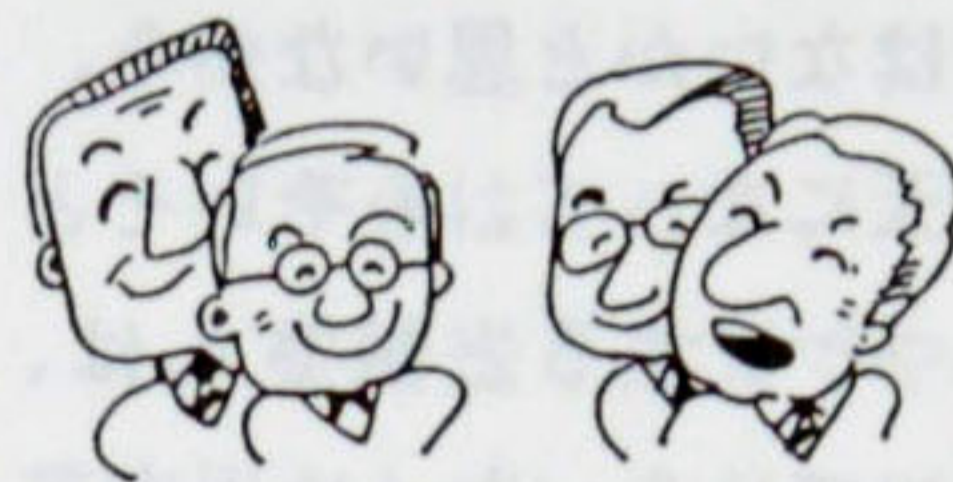
卓話をさせていただきます。耳を塞いで下さい。

佐藤(吉)さん

すみません、早退させていただきます。

菊池さん

雪が小康状態になり、昨日の雪下ろしの費用がムダ？になりそうです。何事もムダ(遊び)が必要なんでしょうか。



2月7日分

¥12,000

卓話

見るなの座敷 荻根沢隆雄会員



「見るなの座敷」の昔話には、このほかにもまだ、神話と似ていると思えるところが、いろいろあります。その一つに主人公の女の人が、多くの話では、正体がウグイスだったと物語られているということがあります。新潟県の長岡市に伝わる話では、そのことがこう語られています。

むかし、一人のきこりが山で仕事に夢中になっているうちに、日が暮れて真っ

暗になってしまいました。どこかに野宿しようかと思ったのですが、ふと見ると不思議なことに大きな家がありました。それでそこへ行って、「今晚一晩、泊めてください」と言うと、美しい娘が出てきて、「この家には私一人しかいないのですが、それでよかったら、どうぞお泊まりなさい」と言って、泊めてくれた上に、さまざまなご馳走を出して、もてなしてくれました。そのご馳走があまり美味しくて、居心地がよいので、きこりは家に帰ることも忘れて、何日もそこに泊まり続けてしまいました。

ある日のこと娘が、「今日は用があって出かけるので、あなたはどうか留守居をしてください」と、言いました。「ああ、よし、よし」と言って、引き受けると、娘は出て行く前にこう言いました。

「家にあるたんすの上の3つのひき出しは、開けてごらんになってもよいのですが、いちばん下のひき出しだけは、どうか絶対に開けないでください」

それで娘がいなくなると、きこりは好奇心にかられて、さっそく見てもよいと言われた3つのひき出しを開けてみました。そうすると、どれも中に広い田んぼがあって、1番目のひき出しには、春に田打ちをしている景色が、2番目のひき出しには、苗代のできている景色が、3番目のひき出しには、田植えをしている景色が入っていました。不思議に思ったきこりが、見てはならぬと言われた4番目のひき出しの中には、いったい何があ

るのかどうしても知りたくて、たまらなくなつて開けてみますと、そこには広い田んぼ一面に稲穂の実っている、秋の景色がありました。

きこりはそれから、ひき出しを閉めて、知らん顔をしていました。そうするとやがて、娘が帰ってきて、泣きながら、「あれほど見ないでくださいと頼んだのに、見たのですね」と言ったかと思うと、ウグイスになって飛んで行ってしまいました。きこりがあたりを見まわすと、さっきまであった大きな家もいつの間になくなって、自分はススキの生い茂った原の中にいました。

前章にも取り上げた「見るなの座敷」の昔話は、新潟県の西蒲原郡にしかんばらでは、こんなふうに語られています。

むかしあるところに木びきと言って、山から材木を取ってくることを仕事にしている男の人がいて、その仕事に毎日げんぐんでいました。ある日のこと、この木びきが自分の仕事場にしている山の中の小屋にいて、そこにはとつとほどきれいな娘さんがやってきました。

「ああ、こんな人をお嫁さんにできたらよいのだが」

木びきがそう思っていると、その娘さんがにこにこ笑いかけながら、「どうかちょっとの間、ここで休ませてください」と頼むではありませんか。木びきは喜んで、「どうぞ、どうぞ、さあゆっくり、休んでください」と言って、娘さんを小屋の中に迎え入れました。そしてしばらく

く二人で、あれこれと話をしていたのですが、そのうち娘さんは、「もしおいやでなければ、どうか私のむこになってください」と、言いました。

木びきは夢ではないかと思ひながら、もう本当に有頂天になって、いそいそと承知しました。そうすると娘さんは、「では、私についていらっしゃい」と言うと、小屋を出て、どんどん山奥へ入って行きます。木びきは、のこぎりと斧をかついで、あとに従って行きました。

もうずいぶん遠くまで来たと思って、木びきが、「あなたの住んでいるところは、まだ遠いのですか」とたずねると、娘さんは、「まだまだ、あの向こうの山のずっと奥です」と、答えます。こんな問答を何度かくり返しながら、いくつもの山を越えて行くうちに、やっと奥山の沢のようなところに着きました。見るとそこにはなんと、でんとしたびっくりするほど立派な家がありました。中に入ると、鉄びんのお湯もチンチンと音をたてていて、お風呂もちょうどよいお湯かげんに沸いていました。

木びきはそれで、娘さんと夫婦になって、その家で暮らしました。そうするとそこでは働かなくても、美味しいご馳走がどんどん出てきます。夢のような幸せな月日を過ごしているうちに、子どもが生まれました。そうするとある日、妻がこう言いました。

「生まれた子の顔を親に見せてやりたいので、実家に行つて来ますから、あな

たは留守居をしてください。この家には、1月から12月までの座敷があります。11月までの座敷は、自由にごらんになってよいのですが、12月の座敷だけは、どうか決して見ないでください」

木びきはそこで、そのことを固く約束して妻を送り出してやりました。だが留守居をしているうちに、見てもよいと言われた11月までの座敷は、見たいとは思われないのに、見るなと言われた12月の座敷に、いったい何があるのか、見たくてどうにもたまらなくなりました。それでちょっと見るだけと思い、中をのぞいてみると、鏡があって、その前に鉄びんのお湯がチンチンと沸いていて、美味しそうなご馳走がどっさりありました。

木びきはそこで、そのご馳走をすっかり食べてしまつて、知らん顔をしていました。そうすると、そこへ妻がもどつて来て、泣きながらこう言いました。

「あれほど見るなと、固く頼んでおいたのに、なぜあなたは、12月の座敷を見たのですか。あの座敷は、山の神さまがお休みになられるところなのです。あなたとは、これでもうお別れしなければならなくなりました。この鏡を、ご覧なさい」

そして鏡を、木びきの顔の前にさし出しておいて、妻はあつというまに1羽のウグイスになり、尾の先に子どもをぶらさげて、どこかへ飛んで行ってしまいました。木びきが鏡を見ると、そこに移った自分はもう若者ではなく、腰のまがっ

た白髪の老人になって、斧とのこぎりをもち、もとの山小屋にいたということです。

この話でもこのように、「見るなの座敷」のある家は、人里から遠く離れた深い山の奥に隠れてあり、そこに美味しい食物をどんどん出すことのできる、正体が実はウグイスの不思議な美女が、ひっそり住んでいたことになっています。そしてこの話ではまた、その家に12の座敷があって、その中に1月から12月までの1年の12月の月が全部しまわれていたようにも物語られています。

「見るなの座敷」の昔話にはこのように、ウグイスの美女のいる山奥の家に行くと、そこではご馳走がどんどん出てくる上に、12の月が全部その家の中にあつたとも、物語られていることが多いのです。

以上、「見るなの座敷」で県内の話が載っていましたのでご紹介をさせていただきました。この昔話の中で見てはいけないものとは山の神様に捧げる大事なもの、あるいは山の神様そのものであり、神様に対しての崇拜というか神様を尊ぶ神様に感謝をしなければいけないことを教えている訳ですが、何れにしても昔から男というものは好奇心が旺盛にできているようです。

くれぐれもウグイス（嬢）にはご注意を？

随 想

うどん 西山徳厚会員

ウー寒い上州名物、空っ風に突き飛ばされるように、瘦せぎすの木枯紋次郎が手をこすりながら、歩いてくる。

早く宿にありついて鍋焼きうどんと、熱燗でキウッと一杯いきてえもんだ。

この季節になると、紋次郎ならずとも、鍋物とか暖かい物が誰しも恋しくなる。

最近の子ども達は、ゆで過ぎたうどんのように色白で長大で、腰も粘りも少ないそうであるが、鍛え直せばまだ救いもあると言うものであろう。しかし、うどんの腰のないダラリとした歯ごたえの無いものは、酒の肴にもならない。

この前日、見るとも無くテレビを観ていたら、四国の山奥の村で旨いうどん屋があり、流行っていると言うことである。その美味の秘伝探求レポートであった。

このうどん屋は朝5時に仕込みを始めた時間と間に合わぬそうである。そのテレビ番組を手本にわが家でうどん教室を始めた。

中力粉に海水の4倍の濃度の12%塩水を加え、いきなり団子にするのではなく、少しずつ何回も水を加え、こねるので無く、混ぜ合わせる感じで、豆腐のおからのような感じにする。そこに更に水を少量加え大きな団子にする。上手くゆく時は手が汚れない。

大きな練りあげた団子をビニール袋を二重にし、その中に入れ、夏は冷蔵庫、

今ならそのまま2時間ほど寝かせる。

このうどん屋は売れること間違いなしだから、麺つゆの用意にかかろう。既成品でも十分間にあるが、ここは一番鉢巻を締め直し、かつおだしなり、昆布だしなり頑張ってみよう。葱の青い葉を刻み入れ、さっと一煮立ちであげると良い。

さて、煙草を消して先刻の休ませたうどん生地を袋ごと、15分程足で踏む。あまり目方をかけたり、乱暴にすると、グルテンの組織が壊れ腰がなくなる。子供たちに踏ませると家族共同作業になり楽しい。

次は延ばしであるが、のばし板にも、麺棒にも、たっぷりと打粉を振るのがこつである。包丁は刃渡りの大きい直刃が良い。

最後の仕上げのゆで、ゆで方は料理のオーソリティーである奥様が、たっぷりのお湯を用意して下さる。麺を入れても温度が下がらず、釜の中で麺が踊るのが、望ましいのである。

このゆで作業で、最初の麺の中の塩分はほとんど、ゆで湯のなかに抜けてしまう。やがて楊貴妃とまで行かないが、太めの色白な透きとおった感じにゆであがった。

これを食卓に供すれば、亦一段と株価が上昇すること間違いなしである。

わが家では「うどんすき」で賞味したが、既成品より遙かに腰も強く歯ごたえもあり、アルバイトでうどん屋を始めたらと大笑いになった。

わが家・色・いろ

高橋政志会員

♣わが家について

妻、長女（高2）、長男（中3）、次男（中1）、華（犬のパピヨン）1匹。

◆おとうさんへの要望

お酒の飲みすぎに注意して、健康に十分気をつけて、仕事に頑張ってください。ちょっと太り過ぎなので、少しスポーツでもやってほしい。たばこの吸い過ぎ。



おとうさんってこんな人

♡一番うれしかったこと

家族で海外旅行に行ったこと。また連れてって……

例会案内

三条RC	2月14日例会	卓話	三条保健所 医薬予防課長	剣 雅晴殿
	2月21日例会	卓話	第4分区代理	岡田健一殿
	2月28日例会	卓話	菊池 涉会員	
三条南RC	2月19日例会	卓話	佐藤栄祐会員	
	2月26日例会	巻保健所長		
	3月4日例会	西巻克郎会員		
三条北RC	2月20日例会	会員卓話		
	2月27日例会	会員卓話		
	3月5日例会			